

平成25年度第4回役員会 議事要旨

日時 平成25年7月22日（月）14時00分～14時43分
場所 学長室
出席者 山本学長，和田理事，大矢理事，海老名理事
欠席者 なし
陪席者 奥田副学長，関事務局長，石橋監事，末永監事

議事に先立ち，事前に配付している前回（6月17日）開催の平成25年度第3回役員会の議事要旨の確認が行われた

報告事項

1. 国立大学のミッションの再定義について

山本学長から，国立大学のミッションの再定義について，報告があった。

【山本学長報告要旨】

・国立大学のミッションの再定義については，文部科学省の当初のスケジュールでは，先行3分野の再定義が25年3月末までに行われ，その後本学を含め後発分野の再定義の作業がなされ，6月末には全国立大学のミッションの再定義が行われる予定であったが，当初のスケジュールが遅れたため，7月19日に人文・社会科学分野を含む後発分野の説明会が開催されたところである。

続いて，説明会の概要について，企画・評価室室長代理から，報告があった。

【企画・評価室室長代理報告要旨】

・後発分野については，スケジュールのほかに，ミッションの再定義の作業の進め方についても変更になっている。
・先行分野では，はじめに大学の判断に基づくエビデンスを提出してから，大学と文部科学省との意見交換が行われた後に，文部科学省がミッションの再定義を行った。
・後発分野では，はじめに大学が文部科学省の指定する説明資料（教育，研究，社会貢献それぞれについて強み特色など）を作成し，資料に関連するエビデンスを附して8月中旬までに提出した後に，8月下旬から大学と文部科学省との意見交換が行われる。
・それを踏まえて，文部科学省から素案が示され，素案に対する大学からの修正案があればエビデンスを附して提出した後に，第2回目の意見交換を経た後に，個表が確定されて，25年中に公表されることになる。

また、本件に関連して、山本学長から、6月25日に行われた学長と文部科学省との大学改革についての意見交換会等の内容について、報告があった。

【山本学長報告要旨】

- ・意見交換会においては、学長から本学の大学改革の取り組み状況（主に5月15日の合同教授会で決定した内容）を説明したが、文部科学省から、本学の取り組み状況について、重要な意見や要請があった。
- ・その主な内容については、次の5点である。
 - （1）ビジネススクール設置以来、大学の動きが聞こえてこないこと。
 - （2）文部科学省（政務三役も含め）では、商大の財務状況について分析しており、現状のままでは持たないこと。
 - （3）大胆な大学改革は当然に必要であること。
 - （4）大学が考えている工程では遅いので、早急に試行実施が必要であること。
 - （5）早急にビジョンを策定し、社会に対してアピールを行い、社会からも期待される必要があること。
- ・文部科学省からの厳しい意見・要請を踏まえ、「将来構想委員会」にて、早急に本学の大学改革について検討していくことにしたい。

なお、以上の報告が行われた後、本件に関連する意見交換等が行われた。

【意見交換等の主な内容】

- 5月の合同教授会では、来年の6月までに改革のビジョンを策定し、新たな制度設計は、平成28年度から着手することが決定されていたようだが、そのスケジュール感では遅いということなのか。
- 早急にビジョンを明確にし、実現可能なことがあれば、前倒しで実施してもらいたいとのことである。本学の機能としては、人材育成が基本的な使命であり、本学はラーニング・ユニバーシティに位置付けられる。また、地元で立地する大学として、地域の拠点となるリージョナル・センターとしての側面も有している。本学の使命は、北海道経済の活性化に資する人材を育成することであることを、明確にしておく必要がある。
- 大学改革を実行するためには、構成員の意識改革が必要になるが、そのためには、危機感を等しく共有しておかなければならないと思う。ミッションが再定義された後は、どのような流れになるのか。
- 再定義されたミッションに沿った施策を展開していくことになる。

2. その他（次回の会議の予定について）

山本学長から、次回の役員会については、平成25年9月30日（月）経営協議会終了後に開催する予定である旨、発言があった。

引き続き、役員懇談会が行われた。

以 上